

がんばる! にちなんびと

大塚食品有限会社

おおつが

ゆうすけ

大塚 裕介さん(37歳)



プロフィール

大塚裕介さん

S57 日南町に生まれる

高校を卒業後、米子市内の飲食店で勤務

退職後、町内のガソリンスタンドで勤務

結婚を機に、家業の大塚食品(有)で働き始める

昭和31年に創業し、親子三代に渡り、木綿豆腐やおぼろ豆腐、厚揚げ、糸こんにゃくなどを移動販売を中心に地元の豆腐屋さんとして展開。町内では道の駅にちなん日野川の郷などで販売されている。

新商品として「森のとうふ屋さんの豆乳」を1月下旬より販売開始される。



1/16 新商品「森のとうふ屋さんの豆乳」の試飲会の様子

家業の大塚食品で働くことになったきっかけは

いろいろと理由はありますが、大きかったのは結婚したことでした。実家である大塚食品が無くなってしまうのは嫌だったので、自分がやろうと決心しました。

家業に入って大変だったことは

今では慣れましたが、豆腐を作るときには朝3時半に起きるので、最初は9時とかには寝ていました。不思議なもので、早起きするようになってから風邪をひかなくなりました。あとは、新規開拓です。それまで米子市の移動販売をしていなかったの、新規に販路を開拓するのは大変でした。また、それまでは感覚で豆腐を作っていたのを数値化しました。やり方を変えるので苦労はありましたが、安定した商品作りができるようになりました。

主に移動販売

創業当時から主に移動販売を行なってきました。県内の西部圏域や県境の市町にも出かけています。長年、購入していただいている方も多く、いつもの時間より少し遅れると「今日は遅かったね。」と言われる。長年買っただき、それだけ生活に染み付いているのだなと嬉しく思います。お客さんでも3代に渡って購入してくださっている方もおられます。商品は、移動販売のほか道の駅にちなん日野川の郷や大塚食品でも購入できます。お電話いただければ、お届けや発送もできます。加えて、各種商品がふるさと納税の返礼品にもなる予定です。

今回、豆乳を新商品として販売される

これまでもお客さんなどから商品化して欲しい。との声を頂いていました。昨今の健康ブームもあり、若い女性をターゲットにと開発しました。モニタリングも実施し、市販の豆乳より甘くて濃いと感想を頂いています。中村町長にも試飲していただき、「豆腐をそのままの飲んでるようだ。」と太鼓判をいただきました。ラベルにもこだわり、自信ある商品になりましたので、是非皆さんに飲んでいただきたいです。

豆乳を商品化する上での苦労は

一番苦労したのは保健所の許可を取ることでした。菌を出さないために滅菌処理が必要になるのですが、それに耐えるだけの容器を見つけるだけでも大変苦労しました。商品化にあたっては、町のチャレンジ企業支援事業を活用させていただき、ラベルのデザインにも多くの方たちにご協力をいただきました。

最後に

今回商品化した豆乳をはじめ、すべての商品を自信を持って販売しています。多くの方に、大塚食品の商品を食べていただきたいです。地元の豆腐屋さんとして、これからも自信のある商品を作っていきたいと思っています。

大塚食品有限会社

日南町霞915-1

TEL 82-1028

